

薬師寺東塔の発掘調査(平城第622次)

薬師寺東塔の発掘調査は、薬師寺東塔保存修理工事にともない、2014年度(平城第536次調査)、と2015年度(平城第554次調査)に実施しています。今回の調査は、既調査において修理工事用の素屋根基礎の下に位置していたため調査ができなかった、北面と南面の各階段の北端・南端部を確認することを主な目的として実施しました。調査は既調査と同様に、奈良文化財研究所と奈良県立橿原考古学研究所とが合同でおこないました。

調査では、北面・南面階段とも地覆石(最下段の踏石)の据付痕跡、抜取痕跡を確認しました。これにより、北面・南面とも階段の出は約1.8m、階段幅は約3.0mと判明し、階段規模が確定しました。また、階段の周囲には犬走り、雨落溝が廻ることを確認しました。南面階段では、雨落溝の外周に接して、創建時の舗装である玉石およびその抜取穴を確認しました。また、基壇および階段の外周部では柱穴を複数確認しました。これらは、創建以来の東塔修理にともなう足場穴とみられます。

今回の調査は小規模でしたが、東塔およびその周囲の構造を知る上で、貴重な知見が得られました。

(都城発掘調査部 前川 歩)



調査区(南面階段)全景(東から)